# 総長からのメッセージ



北海道大学総長

**中村睦男**

北海道大学は、日本最初の近代的大学として 1876 年に設立された札幌農学校以来 130 年に及ぶ長い歴史を有し、大学院に重点を置く基幹総合大学である。

創設期から①フロンティア精神、②国際性の涵養、③全人教育、④実学の重視の 4 つの理念は大切に継承されている。

総合的研究拠点の場として位置付けられる札幌キャンパスは、札幌の中心部に位置し、緑豊かで広大なキャンパスは市民にも開放されている。

北海道大学は、1997 年 2 月に最初の「キャンパスマスタープラン 96（以下、CMP 96）」を策定した。これは、21 世紀に向けた大学の未来像を現実化するためには、教育研究内容に相応しい長期的観点に立った施設整備が必要であることから、将来構想を踏まえた施設整備の基本方針を定めるキャンパス計画として策定された。また、当時の国立大学としては既存キャンパスのマスタープラン策定の先駆けとなり、その後、他の国立大学に大きな影響を及ぼしたところである。

「キャンパスマスタープラン 2006（以下、CMP 2006）」は、CMP 96 の骨子を継承するとともに、様々に変化する大学の役割や組織に対応したキャンパスの空間を整備することにより、持続的な発展を可能にすること、及び、大学運営に資するため変化に柔軟に対応する施設・環境マネジメントを重視した計画である。

平成 16 年 7 月、本学と北海道、札幌市、北海道経済連合会、北海道経済産業局は、北キャンパスエリアにおける「北大リサーチ＆ビジネスパーク構想」を推進するために、地域連携協定を締結した。大学と地域が連携し、共に持続的な発展を進めることが必要であり、今回の CMP 2006 は、大学と都市との連携した施設計画の構築も考慮したこと、さらには、アクションプランとして達成すべき計画が具体的に明記されていることなども特徴である。

キャンパスマスタープランは、大学運営のための大きな指針となるものである。

今後の大学運営においては、今回策定された CMP 2006 の施設・環境計画に基づき全学が共通の理解の基に継続的にその実現に取り組むことが重要であると考えている。



1996 年　CMP 96 が策定された当時の北海道大学札幌キャンパスの配置図




2006 年　北海道大学札幌キャンパスの配置図
CMP 96 策定時と比較すると北キャンパスの開発が進んでいる